

自動走行システム推進委員会（第2回）議事要旨

1. 日 時 平成26年7月1日（水）13:00～15:00

2. 場 所 中央合同庁舎4号館11階共用第1特別会議室

3. 出席者：（敬称略）

（議長）渡邊 浩之	プログラムディレクター
有本 建男	政策研究大学院大学 教授
葛巻 清吾	CSTO (Chief Safety Technology Officer) 補佐
朝倉 康夫	東京工業大学 大学院 理工学研究科 教授
天野 肇	ITS-Japan 専務理事
稲垣 敏之	筑波大学 大学院 システム情報工学研究科 教授
岩貞 るみこ	自動車ジャーナリスト
加藤 晋	産業技術総合研究所 知能システム研究部門 研究グループ長
川本 雅之	トヨタ自動車株式会社 技術統括部 主査
清水 和夫	自動車ジャーナリスト（代理：吉岡卓朗）
関口 守	富士重工業株式会社 技術本部電子商品設計部 主幹
栃岡 孝宏	マツダ株式会社 技術研究所 部門統括研究長（代理：瀬川邦生）
永井 正夫	日本自動車研究所 所長
福島 正夫	日産自動車株式会社 環境・安全技術渉外部 技術顧問
横山 利夫	株式会社本田技術研究所 四輪R&Dセンター 上席研究員
市川 類	内閣官房 IT総合戦略室 参事官
山本 和毅	警察庁 長官官房 参事官
森下 信	総務省 総合通信基盤局 新世代移動通信システム推進室 室長
吉田 健一郎	経済産業省 製造産業局 電池・次世代技術ITS推進室 室長
山本 巧	国土交通省 道路局 道路交通管理課ITS推進室 室長
久保田 秀暢	国土交通省 自動車局 技術企画室 室長（代理：谷口正信）

オブザーバー

五十嵐 誠 東京都 青少年・治安対策本部 治安対策担当部長

説明者

・システム実用化WG

鶴浦 清純	株式会社本田技術研究所 四輪R&Dセンター 主任研究員
白土 良太	日産自動車株式会社 モビリティ・サービス研究所 主任研究員
山本 康典	マツダ株式会社 技術研究所 人間機械システム研究 研究長（代理：瀬川邦生）

・国際連携WG

内村 孝彦 ITS Japan 理事 自動運転プロジェクトリーダー

・次世代都市交通WG

中村 文彦	横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院 教授
花井 利通	ITS Japan 企画グループ グループ長

総合科学技術・イノベーション会議

久間 和生 常勤議員

事務局

山岸 秀之 内閣府 科学技術・イノベーション担当 審議官
田沼 知行 内閣府 科学技術・イノベーション担当 企画官
兵藤 守 内閣府 科学技術・イノベーション担当

4. 議題

1. 本日の議論内容
2. 推進委員会及び各WGの体制について
3. 利益相反に対する考え方について【非公開】
4. 各WGにおける検討状況
 - (1) システム実用化【非公開】
 - (2) 国際連携
 - ①米国の最新状況
 - ②欧州の最新状況
 - ③国際連携WGの進め方について
 - ④国内開催の国際会議の企画について
 - (3) 次世代都市交通システム【非公開】
5. その他
 - (1) 今後のスケジュール
 - (2) 留意点と提案

5. 配付資料

資料2-1 本日の議論内容
資料2-2-1 自動走行システム推進委員会構成員案
資料2-2-2 システム実用化WG構成員案
資料2-2-3 国際連携WG構成員
資料2-2-4 次世代都市交通WG構成員案
資料2-4-2-① 米国の最新状況について
資料2-4-2-② 欧州の最新状況について
資料2-4-2-③ 国際連携WGの進め方について
資料2-4-2-④ 国際会議の企画について
資料2-5-1 今後のスケジュールについて
資料2-5-2 留意点と提案について

【参考資料】

参考資料1 自動走行システム推進委員会（第1回）議事要旨案

6. 議事要旨

会議冒頭、久間議員より以下の発言があった。

- 本課題は、我が国の基幹産業のひとつである自動車産業の国際競争力を高めることを目指しているという点で関心が高く、昨今のグーグル・カーのように、マスコミも大きく取り上げることが多くなっている。
- 昨年はITS世界会議が東京で開催され、皆さま方を含めた関係各位のご尽力により我が国の先進的な取り組みを世界に大いにアピールできたと認識している。SIPにより、さらに世界を先導できるような成果が生まれてくることを期待している。

- 本課題では自動車産業だけの枠組みにとどまらず、ICT産業との融合も不可欠。そういった視点も十分考慮し、多様な分野の先端技術を結集させ、確実に成果を出すことをお願いしたい。
 - 携帯電話のように、日本だけ別の規格で、ガラパゴスになるようなことは避けたい。
1. 本日の議論内容
 - 資料2-1に基づき、本日の議論内容を渡邊PDより説明
 2. 推進委員会及び各WGの体制について
 3. 利益相反に対する考え方について【非公開】
 4. 各WGにおける検討状況
 - (1) システム実用化WG【非公開】
 - (2) 国際連携WG
 - 資料2-4-2-①、②に基づき、欧米の最新状況について国際連携WG・内村構成員から説明。続いて資料2-4-2-③、④に基づき国際連携WG・天野主査よりWGの進め方、国際会議の企画についての説明・提案があり、以下の通り質疑があった
 - ◇ 国際会議にはSIPの冠をつけることを考えたい
 - ◇ メディアは不勉強の状態取材をすることが多く、ミスリードされることも多い。事前にメディアの勉強会を開くことが必要だと思う
 - PDと議論する場も含め考えていきたい
 - 事前勉強会は重要であることは同じ認識
 - ◇ 国際会議はこれから毎年続けていくということであれば、何のために開催するのか、その位置づけの整理が必要であろう
 - 本当のキーパーソンに来てもらうのは大変。SIPの会合に来れば他で得られない情報が得られると言うことにテーマを絞り、会議参加の動機付けができるようにしたい
 - 地図情報の扱いやアジアでは大きな問題になりうる歩行者向けのケアについてはアピールできるのではないか
 - (3) 次世代都市交通WG【非公開】
5. その他
 - 資料2-5-1に基づき、今後のスケジュールについて事務局から説明が、資料2-5-2に基づきPDから留意点の説明と提案があった
 - 最後に、久間議員から以下の発言があった
 - ◇ 3つのWGがどうつながって目標に向かっていくかを明確化することが必要ではないか
 - ◇ WGの中で扱われる施策間の連携を明確にする必要があるのではないか
 - ◇ それぞれの取組において、目標を定量化するようにしてほしい
 - ◇ 欧米に対して日本が強いところ、弱いところを制度面も含めて分析することが必要
 - ◇ 標準化戦略では、欧米の意見が分かれたときにどちらにつくのか、といったことまで考えるべき

以上